

# 指導と評価の一体化を目指して ～体育・保健体育～

学習指導要領の総則では、「授業の改善」(指導)と「評価の改善」(評価)を一体的に充実させることの重要性が示されています。学習評価によって、「児童生徒にどういった力が身に付いたか」を的確に捉えて、教師は、指導の改善を図ること、児童は、自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが大切です。ここでは、「1. 学習評価の進め方の手順」と「2. 指導と評価の計画の作成のポイント」、「3. 評価後の指導の継続と再評価の重要性」について示します。

## 1. 学習評価の進め方の手順

### (1) 単元の目標を作成

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 児童の実態、前単元までの学習状況等を踏まえて作成する。

### (2) 単元の評価規準を作成

- (1)、(2)を踏まえ、評価場面や評価方法を計画する。
- どのような評価資料(児童の反応やパフォーマンスなど)を基に、「おおむね満足できる」状況(B)と評価するかを考えた上、「努力を要する」状況(C)への手立て等を考えたりする。

### (3) 「指導と評価の計画」を作成

#### 授業を行う

- (3)に沿って観点別学習状況の評価を行い、児童の学習改善や教師の指導改善につなげる。

### (4) 観点ごとに総括する

- 集めた評価資料やそれに基づく評価結果などから、観点ごとの総括的評価(A、B、C)を行う。

## 2. 指導と評価の計画の作成のポイント



単元の目標、内容、評価規準が具体化され、指導場面や評価機会が関連付けられた指導と評価の計画を作成することが大切である。その際、目標の実現に向けて、指導したことを評価すること、「努力を要する」状況(C)と判断される生徒への指導の充実が速やかに図ることができるよう、評価機会を適切に設定することなどに留意する必要がある。

### 右の事例より

本事例では、指導事項をバランスよく配置するとともに、形成的な評価機会を設定している。さらに、10時間目に観点別学習状況の評価の総括的な評価を位置付けている。

例えば、2・3時間目に指導したボール操作の技能については、5時間目に「技②」の評価規準に基づき評価する。その際、Cと判断される生徒がいた場合には個別の指導を行うなどの手立てを行い、単元の進行とともに、その生徒の学習状況の変化を10時間目に最終確認している。

また、矢印で示すように、シュートであれば、2時間目に技術的なポイント(知識)の学習機会を設け、練習場面を2時間目に設定した上で3時間目に「技①」の評価を行う。さらに発見した課題について、7時間目にシュートをテーマとした課題解決の時間を設け、動きのポイントやつまずきについて仲間の課題や出来映えを伝えるなど、知識や技能を活用して「思考力、判断力、表現力等」の学習や評価につなげることができるよう、各指導内容間の関連を図る工夫をしている。

## 3. 評価後の指導の継続と再評価の重要性

単元途中の観点別学習状況の評価は、生徒一人一人の学習状況を明確にし、生徒の学習改善につなげると同時に、教師の指導の成果や課題を明らかにするものである。このことから、観点別学習状況の評価は、単元の終末にまとめて行うものとして捉えるのではなく、指導場面に対して評価の機会を検討し設定することが重要である。

また、生徒の学習状況を的確に把握するため、日々の授業での一人一人の様子を評価補助簿等に記録し、特に、「努力を要する」状況(C)の生徒に対して手立てを講じるのが重要になってくる。例えば、評価した結果を具体的な言葉かけなどにより生徒に返して学習の改善を促したり、教師の指導の手立てを修正したりするなど、評価を指導に生かしていくようにする。

併せて、「十分満足できる」状況(A)の生徒の把握にも努め、個別の課題を与えるなどの指導を行う。

## 【事例】内容のまとめり：第1学年及び第2学年 E 球技 単元名：ゴール型：サッカー(第2学年)

### ◆指導と評価の計画例

単元の目標	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等								
	次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や(成り立ち)、技術の名称や行い方、(その運動に関連して高まる体力)(など)を理解するとともに、基本的な技能や仲間との連携した動きでゲームを展開することができるようにする。		攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。		(競技に積極的に取り組むとともに)、(フェアなプレイを守ろうとすること)、(作戦などについての話し合いに参加しようとする)、(一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする)、仲間の学習を援助しようとする(など)や、健康・安全に気を配ることができるようにする。								
単元の流れ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
オリエンテーション	0	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										<ul style="list-style-type: none"> <li>・三つの資質・能力の内容をバランスよく指導する。</li> <li>・動きの獲得を通して、知識の大切さを一層実感できるようにする。</li> <li>・汎用性のある知識を精選した上で、知識の学習を基盤とした学習の充実を図る。</li> <li>・ゴール前の空間の攻防をめぐる学習に課題を追求しやすいうようにプレイヤーの人数、コート広さ、用具、プレイ上の制限を工夫したゲームを取り入れる。</li> <li>・練習やゲームでは、即時アドバイスをし合うことができるようにし、学習の振り返りで質を高めていく。</li> <li>・仲間への助言や安全に留意する意義などの理解と具体的な取り組み方を結び付けて指導する。</li> </ul>	
		ボール操作	健康観察・本時のねらいの確認・準備運動										
			シュートパストラップ	空間に走り込むなどの動き ボールとゴール	課題の練習と解決の練習 ボール空間に操作走り込む		ゲームⅠの修正 最終リーグ戦Ⅰ	最終リーグ戦Ⅱ					
					人数・コール・ルール等の簡易化								
			ボール慣れゲーム	シュートゲーム ゲーム記録の活用	グリッド突破ゲーム 仲間の即時助言	整理運動・学習の振り返り・次時の確認		単元のまとめ					
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認												
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法		
	知	①	(②)	(②)		②					総括的な評価	学習カード	
	技			①		②	③					観察	
	思						②	①		③		学習カード、観察	
態		②		①								観察、学習カード	
単元の評価規準	知	①球技には、集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。											
	技	①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。											
	思	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。											
	態	①練習の補助をしたり仲間に助言をしたりして、仲間の学習を援助しようとしている。											

### ◆観点別学習評価(評価補助簿の例) ※記載のないところは、「B」と評価している。

観点	知		技			思			態	
	①	②	①	②	③	①	②	③	①	②
時数/10	1/10	5/10	3/10	5/10	6/10	7/10	6/10	9/10	4/10	2/10
月/日	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
生徒イ			A	A	A	A			A	
生徒ロ			A							A B7/10 ※1
生徒ハ		C B10/10 ※2					✓ A10/10 ※3	A		A

### <引用・参考文献>

- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 令和2年3月 文部科学省 国立教育政策研究所
- ・学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編 平成29年7月 文部科学省